

議会報告会実施報告書

教育福祉委員会

開催日時	令和7年10月14日（火） 午後8時05分～午後9時05分	開催会場	総合会館2階会議室
参加者数	市民 21人、議員 9人（計 30人）		
実施内容	テーマ「熱中症対策と学校教育環境について」		
質疑および 主な意見等	<p>進行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川上議長 挨拶 ・グループ懇談会 ・全体シェア発表 ・田口副委員長 閉会の辞 <p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会報告会次第 ・予算決算委員会 決算の概要と令和8年度予算編成に向けた3つの提言 <p>懇談会 4 グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部中グループ（中部中、広見小、東明小、旭小） ・蘇南中グループ（蘇南中、今渡北小、今渡南小、土田小） ・西可児・広陵中グループ (西可児中、広陵中、帷子小、南帷子小、春里小) ・東可児中グループ（東可児中、桜ヶ丘小、兼山小） <p>中部中グループの意見</p> <p>《熱中症対策について》</p> <p>【登下校時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下校時間の変更をして欲しい ・夏場の短縮授業での下校時間（35°Cの中 13:30～14:20） ・夏場に1時間近くかけて徒歩では学校で疲れてしまう ・片道1時間かけて歩く児童の真夏の帰り道はキケンである。夏期のみでもよいのでバスのような対策があるとよい ・結局保護者の送迎になっている ・緑ヶ丘、羽生ヶ丘…坂が多い（帰りが上り坂）体力のない子が途中で歩けなくなったりした事例あり ・リモート授業（無理に登校させない）ただし、体育、音楽などの検討は必要となる ・コミュニティバスを利用できないか ・下校時間の変更をするか？ 時期によって変えてもいいと思う 		

- ・水分補給ポイントがほしい→社会貢献なので市から促してほしい（旭小学校）
 - ・14時の下校は暑い
- 【学校内】
- ・体育館のエアコン
 - ・プールの授業が暑くてできない
 - ・お茶や水を冷蔵庫に入れておけるとよい
- 【その他】
- ・みまもりオアシスと子ども110の家の違いを子どもが理解できるか

《学校教育環境について》

- ・道が狭いので広くしてほしい（迎えに行けない）
- ・タブレット使用やAIについてどのように指導していくか
- ・タブレットが重たい（低学年）教科書の方が軽い
- ・子供の送迎時の駐車場渋滞
- ・先生が不足（サポーター）実情に合わせてほしい
- ・教室がせまい ダブルレット充電環境を整える、冷蔵庫の設置等
- ・プールの授業を秋にずらしてほしい。
- ・着衣泳（着衣水泳）の要望あり、命を守るための授業
- ・水泳授業の外部委託
- ・東明小のサポーターさんが、少なくなっていて登下校時怖い
- ・ふるさと納税の調整金をうまく使って財源確保を
- ・冷たい牛乳を飲ませてあげたい
- ・生徒の意見を尊重してほしい
- ・失敗しないよう保護しすぎではないか
- ・社会教育の導入 地域の企業を招いて、それぞれの成長に合わせたお話や体験を入れて欲しい
- ・タブレットの有効活用 親と一緒に見る宿題などあってもよい（スマホ・性教育など）
- ・各学年の「いのちの授業」を毎年行なう（いじめ防止や自分の存在意義を高めるため）

蘇南中グループの意見

《熱中症対策について》

【登下校時】

- ・日傘、ネッククーラーの使用
- ・帽子着用の徹底
- ・遠距離児童に対するスクールバスの導入の検討
- ・みまもりオアシスの充実と同時に周知をわかりやすく願いたい
- ・入学時にいただく傘は日傘兼用の雨傘に統一してはどうか

- ・WBGT 値が高い時は低学年のみでの下校はしない方がよい
- ・朝の児童玄関の開錠時間を早めてほしい
- ・全体的な対応だけではなく児童生徒の通学路・通学時間等を把握して個別の対応も検討すべきではないか

【学校内】

- ・WBGT 値測定
- ・エアコンの活用
- ・塩分タブレット配布
- ・児童玄関にミストの設置は有効である
- ・冷凍庫の設置ができるとよい（ネッククーラー等の冷却）
- ・冷水器の設置ができるとよい
- ・冷水器の導入が無理なら自販機を使用できるようにしてほしい
- ・ミスト設置していない学校は、設置するとよい

【その他】

- ・夏休み期間の延長
- ・WBGT 値の運用基準を厳しく
- ・サングラスの使用の許可

《学校教育環境について》

- ・タブレットの学習用アプリ使用料を PTA 予算で貯っているので市で予算確保をしてほしい
- ・学校がまだまだ地域との連携が取れていなくて閉鎖的な印象があるので学校運営協議会を機能させる必要がある
- ・外国籍の親との交流ができていないので PTA 活動に積極的に参加できる仕組みを考える必要がある
- ・水泳授業がコパンとなり、子どもたちも楽しく授業を受けている
- ・働き方改革の名のもと学校行事が少なくなっているので、子どもの体験の場が少なくならないように願う
- ・病弱児の受け入れができるように看護師の配置を願いたい

西可児・広陵中グループの意見

《熱中症対策について》

【登下校時】

- ・ネッククーラー、ハンディファン、日傘OK（西可児）
- ・帽子着用を実施（広陵）
- ・自治会協力による荷物の軽量化、日傘推奨、冷却グッズ使用可、WBGT 値高い時は塩分タブレット摂取後下校（春里）
- ・下校時水筒の残量確認、塩分タブレット配布、帽子着用の徹底、傘使用、ネッククーラー使用可、1年生下校時サポーター付き添い（南帷子）
- ・スクールバスの導入…夏だけでなく日が短い冬場の下校も安心
- ・冷却グッズを冷やすための冷凍庫設置

- ・冷水器設置…水道水はぬるいため飲まないし水筒に補給しない
 - ・ハンディファンの使用を許可してほしい
 - ・荷物の軽量化…特に荷物の多い月火などは親が荷物だけ先に持っていくのを許可してほしい
 - ・WBGT 値が高い時は低学年のみで下校させるのはやめてほしい
- 【学校内】
- ・WBGT 値測定、体育授業は給水と休憩を挟む、活動場所の工夫、エアコンは常時稼働（南帷子）
 - ・ミスト設置、増設
 - ・自販機を使用できるようにしてほしい…夏休み中の部活動時などは水分が足りなくなることがあるが自販機が使えない
 - ・格技室へのエアコン導入についても検討してほしい
 - ・部活動時休憩できるよう日除けを設置してほしい
- 【その他】
- ・塩分タブレットの味が苦手で食べられない子がいることも知ってほしい…いろんな味のものが出ているので他の味を検討してもよいのでは
 - ・汗をかいた後の教室内の冷房が強すぎて体が冷えてしまう子もいる…室温の適正管理について配慮が必要

《学校教育環境について》

- ・タブレットと教科書の併用で荷物が多くなっている。教科書をロイロに取り込むなどして、両方持ち帰らなくても家庭学習ができるようにしてほしい
- ・ロイロやチームスを親のスマホで確認できるようにしてほしい…宿題や予定を確認することができない
- ・iPad の画像を投影するスクリーンについて、白い段ボール板のようなものを使っているが見づらいため、スクリーン設置してほしい
- ・プロジェクターと先生のタブレットの接続が悪く授業中によく切断して時間がもったいない 有線接続はできないか
- ・水泳授業がコパンとなり、子どもたちも楽しく授業を受けている
- ・運動会の競技が少なく物足りない
- ・熱中症対策で練習時間が確保できない
- ・応援合戦を復活してほしい
- ・響繫祭 ala ができるのが楽しみ
- ・グランドの水はけが悪い
- ・グランドが広すぎて草刈りが追い付かない
- ・17：30 以降電話がつながらなくなってしまって困る せめて 18：30 くらいまではつながるようにしてほしい
- ・上靴を指定にしないでほしい 足の幅が広いため指定の靴は合わない 足に合うものをはかせてあげたい

東可児中グループの意見

《熱中症対策について》

【登下校時】

- ・自転車通学の中学生は日傘がさせず、歩道橋の下など日陰で給水したりしてしのいでいる
- ・児童に対し、日傘の使用を家庭と学校で指導している
- ・日傘を最初はPTAで購入し児童に持たせている（6/16から10/10と期間を定めている）
- ・冷凍庫2台 学校で購入し各階に設置済み
　ネッククーラーを冷やしている。
- ・WBGTが高い暑い日は屋外での運動は原則中止となっていて、安心ではあるが、運動させたい
- ・一番暑い時間帯の下校には配慮をして欲しい
- ・遠距離の児童生徒が休める屋根付きの場所が欲しい
- ・スクールバスの検討を（遠距離通学）

【学校内】

- ・冷凍庫 各階に設置してネッククーラーを冷やしている
- ・脱水症状の時に備え保健室に経口補水液を常に用意している
- ・暑い日 オンライン授業を可能として欲しい
- ・屋外で運動できないので体育館のクーラー設置を
- ・冷凍庫、冷水補給設備の設置をして欲しい

《学校教育環境について》

- ・体育の授業を男子女子が一緒にやっているが、体力差があるのでケガの原因にならないか
- ・市内中学校の交流イベントをして欲しい
- ・英会話教育 道徳教育の授業時間の拡充が必要と考える
- ・市内小学校の合唱交流会を再開して欲しい
- ・通学路沿いの城戸坂（学校から近い山際）の木が垂れ下がっている
　台風後、大雨後には、点検して欲しい
- ・小規模特認校制度になったが、現在は保護者送迎が条件となっており、児童が増えない。送迎バスを検討して欲しい

熱中症対策については、共通して挙げられていたのは

- 冷却グッズを冷やすための冷凍庫の設置をして欲しい
 - 遠距離児童のため送迎バスを検討して欲しい
 - 水分補給のための冷水機を設置して欲しい
- といった意見が各グループから挙がっていました
- 他子どもの目線で、
- 子ども110の家とみまもりオアシスの違いが分かりにくいのではないか

という意見がありました。

学校教育環境については

○ GIGAスクールでタブレットの有効活用を図って欲しい（AI教育、軽量化）

タブレットの有効活用については、子ども達がどのように活用しているか、関心が高いこと・アプリに関して負担になっている現状

○ 水泳授業の外部委託を評価している、今後の導入に期待を寄せているという意見もありました。

アンケートの記述には

○ 子どもからも意見を聞いて見てはどうか

という意見がありました。

【所 感】

本報告会では、可児市PTA連合会の皆様から、子どもたちの命と学びを守るために具体的な意見を多数いただきました。特に猛暑下での登下校や部活動に関する熱中症対策として、下校時間の見直し、スクールバスの検討、冷凍庫や冷水器の設置、エアコン整備など、切実な要望が多く寄せられました。

こうした意見は、予定されている体育館へのエアコン設置と併せ、学校現場の実態に即した取組が今後さらに求められていることを示しています。また、ICT教育の中でAI活用などタブレットの有効活用、命の授業や道徳教育の拡充、いじめ防止・多文化共生など、教育内容そのものへの関心も高く、学校・PTA・地域が連携して子どもを育む意識が共有されました。一方で、スクールサポーターや看護師配置など人的支援の不足、通学路や学校施設環境の課題なども明らかとなり、教育の質と安全を両立させる体制づくりが課題として浮き彫りとなりました。また、子ども達の体験の場を減らさないで欲しいという声や荷物の軽量化についても地域の協力が不可欠であり、子ども達のために学校PTA地域の連携が重要であり、学校運営協議会の活性化を図ることが、カギを握っているのではないかと感じました。

こうした現場の声を丁寧に受け止め、教育委員会や関係部局と連携しながら実態把握を進めるとともに、今後とも、子どもたちが安全で安心して学べる学校環境づくりに向け、保護者や地域とともに歩む委員会でありたいと思います。

令和7年10月31日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。



開催日時	令和7年11月29日（土） 19時00分～ 20時15分	開催会場	多文化共生センター フレビア
参加者数	1班 外国籍市民2人（ブラジル2名）、議員2人（計4人） 2班 外国籍市民2人（ブラジル2名）、議員2人（計4人） 3班 外国籍市民2人（ブラジル1名、フィリピン1名）、議員2人（計4人）		
実施内容	テーマ「災害への備え～災害情報の入手方法など～」		
質疑および主な意見等	<p>【懇談の目的】 外国籍市民の災害に対する意識を知るとともに災害情報をどのように入手しているかについて意見交換をする中で共有する。</p> <p>【テーマ1 「災害情報をどのように入手しているか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害情報はテレビやラジオなどのマスメディアから得ている。 ・子ども（家族）から情報を得ている。 ・フレビアの情報（県からの情報とリンクしている）から得る。 ・ポルトガル語で登録しているが、可児市からのメール（情報）がこない。 ・母国（ブラジル）は地震が無い。（日本人との地震に対する意識に違いあり） ・子どもが学校で地震など災害のことを学んでくることで、大人や親は子どもを通じ災害のことや情報を得ることがある。また、親は災害の学びが不足しており災害に対して「何をすれば良いか」がわからない。 ・子どもが学校で学んで来たことから家族が備える事を知り、備えを始めることがある。 ・日本で住み始める時に、日本に住むにあたっての研修を受ける時間（2時間ほど）があると良い。 ・テレビやすぐメールで情報を得ている。 ・インターネット、特にSNSで得ている。 ・会社で同僚から聞く。 ・事前に情報を得るために、自らは何もしていない。 ・自治会には入っていないし、防災のことを担っていることは知らない。 ・どんな情報もスマホで入手している。（TikTokで情報を得てインスタでシェアしている。）WEBサトよりTikTokが速い。 ・災害に限らず紙ベースのパンフやチラシも見るが、日本語よりも英語を手にすることが多い。 <p>【テーマ2 「災害時のための備えはどうしているか】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の備えとして水や食料、簡易トイレなどの備蓄品は用意している。 ・発災時の避難先も把握している。 ・災害備蓄品は備えていない。 ・災害の備えについて社内で話題にすることはあるが、特に何もしていない。 ・災害のニュースを見た時以外、日常会話の中で話すこともない。 ・CTKなどで注意喚起されるが、大きな被害にならないので何もしていない。 ・災害があってもスマホで家族と連絡はとれると思うので心配はしていない。 ・今回、災害について考える良い機会を得られたので今日から実践したい。 		

- ・日本は地震が多いと思うがどうか？ ⇒すごく思う。フレビアの訓練にも参加した。
- ・何か準備しているか？ ⇒一番大事な自分の情報を近くに置いている。また備蓄品も準備している。※想像していた以上に災害に対する備えをしていることに驚いた。

【その他の意見】

～災害について～

- ・過去に濃尾地震のような大きな災害があったことは知らない。
- ・2年前の能登地震の際は怖い思いをした。
- ・地震の時、固まってしまい動けなかった。
- ・もし家が倒壊していたら逃げることはできなかつたと思う。
- ・最近の大雨で怖い経験をした。
- ・2010年に起きた可児川の豪雨災害の事は聞いたことがある。

～困っていること・要望など～

- ・アパートに住んでいるが、アパート内の住民との交流が無い。
- ・困りごとは近くの交番又はガソリンスタンドに相談に行く。
- ・ビザの更新が近いが、最近のニュースを見ると許可されるか心配。
- ・日本で生活していて困っていることは？
⇒日本語が難しい。高校での授業は日本語、配布物などは英語と母国語。
- ・日本人は優しい？
⇒みんなとても優しくしてくれる。しかし色々な悩みを共有できるので、正直外国人の方が話しやすい。
- ・可児市は住みやすい？
⇒日本人が気を使って合わせてくれるので、とても住みやすい。
- ・可児市への要望は？
⇒東濃高校へ通う学生みんなが名鉄広見線を残して欲しいと言っている。
⇒私たちよりも年齢が上の親世代は日本語を覚えられないので、通訳の人をもっと増やして欲しい。
⇒専門学校に合格したが、入学金・学費が高くて諦めた。何とかならないか。

※参加者の方々は可児市での住みやすさを強調していたが、困っていることや要望も決して少ないので、こうした機会を通じて外国籍市民の皆さんとのコミュニケーションを継続していくことが肝要である。

【まとめ】

今回の懇談では、外国籍市民の災害情報の入手手段や災害への備えの状況、さらには日常生活における困りごとや要望などについて多角的に意見を聞くことができた。

災害情報の入手については、テレビやラジオなどのマスメディアに加え、SNSやスマートフォンを活用する声が多く、特にTikTokやInstagramといった若年層に馴染みのある媒体が重視されていた。一方で、自治会や防災組織の存在を知らない、あるいは関与していないという声もあり、地域とのつながりの希薄さが課題として浮かび上がった。また、子どもを通じて災害情報を得た

り、学校での学びが家庭内の備えにつながっているという意見も多く、家庭内での情報伝達の重要性が示された。特に、母国に地震がないブラジル出身者にとっては、日本特有の災害に対する知識や意識が乏しく、「何をすれば良いか分からぬ」という不安の声もあった。

災害への備えに関しては、水や食料、簡易トイレなどの備蓄をしている人もいる一方で、特に何もしていないという声もあり、個人差が大きい。災害のニュースを見た時以外には話題にしないという意見もあり、日常的な意識づけの必要性がうかがえる。また、災害時の連絡手段としてスマートフォンを頼りにしている人が多く、通信手段の確保や情報の多言語化も重要な課題であると感じた。

その他、生活面での困りごととしては、日本語の壁や経済的な負担、地域との交流の少なさが挙げられた。特に高齢の親世代にとっては日本語の習得が難しく、通訳の増員を求める声もあった。

こうした課題に対し、本委員会としては多言語対応の強化や、外国籍市民との継続的な対話の場を設けることが必要だと感じた。

令和7年12月25日

可児市議会議長様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

総務企画委員会 委員長 板津 博之



開催日時	令和7年12月20日（土） 13時00分～14時00分	開催会場	帷子地区センター
参加者数	市民 17名 議員 7名		
実施内容	テーマ「名鉄広見線（犬山-新可児駅間）の活性化について」		
質疑および 主な意見等	<p>主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化対策に若い世代の呼び込みがカギである ・西可児駅周辺に人が集まる機能を集約する ・ボランティアの高齢化に対応するため自動運転バスを導入する ・マナカ又はマイナンバーカードの紐づけができるとよい ・駅から市各施設へ円滑に移動できることが重要である。さつきバス・デマンドバスとの接続を含め、市内の移動手段として電車を活用できる仕組みづくりを行う ・電車・さつきバス・デマンドバスの組み合わせにより、市内外への移動を容易にし、「電車は使いやすい」と思ってもらえることが、利用促進につながる ・観光資源のPRを強化し、電車移動ができる具体的な利用イメージを示すことが大事だ ・駅周辺を利用する目的や用事を生み出す環境整備が大事である ・電車がなくなれば、子どものために転居も考える ・若い人の意見を聞くべきである <p>考察</p> <p>今回、日常生活を支える鉄道の活性化（犬山駅から新可児駅間）について、駅周辺の施設を含む本市の魅力づくり、観光地などの情報発信の重要性などの意見が多くあった。また、バス路線や名鉄の運行ダイヤに関する要望もあり、特に帷子地区においては、西可児駅にどうアクセスしやすくするかが課題となっている。</p> <p>インフルエンサーを活用してはとの意見もあり、今後も幅広く意見聴取を行い活性化に関する調査研究に取り組んでいきたい。</p>		

令和8年1月7日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

建設市民委員会 委員長 山田 喜弘

